

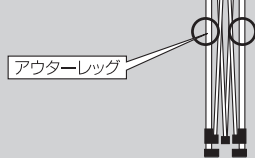
テントの組立て方法

※写真は「KA/6W」を例に説明しています。テントの大きさや形状に違いはありますが、他の規格品も組立て手順は同じです。なお各部の名称は裏面「各部の名称」を参照してください。

1



四隅のアウトターレグを持ち、少し浮かせながら左右に広げます。

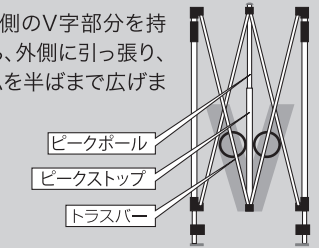


▲ **注意** フレームが引っ掛かっている場合がございますので、無理に広げないでください。

2

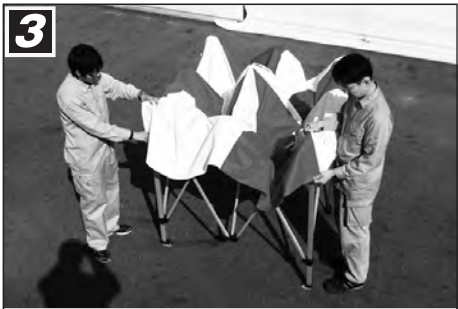


トラスバー下側のV字部分を持ち上げながら、外側に引っ張り、本体フレームを半ばまで広げます。



▲ **注意** ピークポールがピークストップから抜けていると、フレームは開きません。差し込まれているのを確認してください。

3



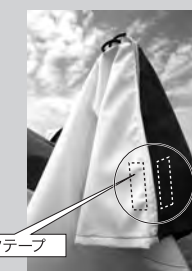
天幕を袋から出し、本体フレームにかぶせます。

▲ **注意** 脚はすべて同じ長さ（水平）に揃えてください。

4



天幕と四隅のアウトターレグのマジックテープを合わせます。



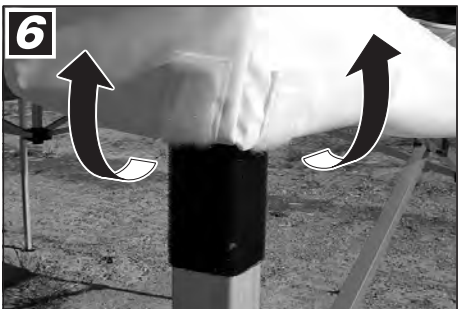
裏面：マジックテープ

5



トラスバー下側のV字部分を持ち上げながら、さらに外側へ引っ張り、本体フレームを最大まで広げます。

6



四隅の天幕を少しめくり上げます。

▲ **注意** ベグは、ロープに対して直角に打ち込んでください。

7

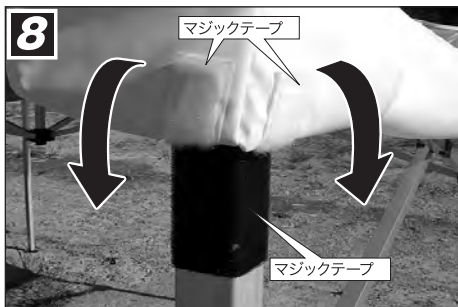


アウトターレグにあるすべてのスライダー（J2P及びJ3P）を、「パチン」と音がするまで押し上げます。

※ロックがかかりにくい場合は天幕の角を一度外してから押し上げてください。

▲ **注意** 手や指をはさまないようご注意ください。

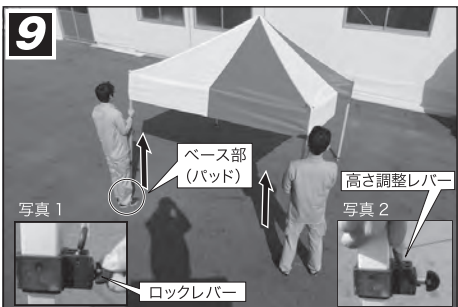
8



でめくり上げた天幕を戻し、天幕とアウトターレグのマジックテープを固定させます。

▲ **注意** 天幕の四隅はしっかりと最後まで被せて下さい。天幕のたるみの原因となり、天幕の劣化を早めます。

9



ベース部（パッド）を足で踏みながら、両端のアウトターレグのロックアジャスターJに付属している「ロックレバー」が解除になっている事を確認した上で（写真1）、「高さ調整レバー」を押し込みながら（写真2）、アウトターレグを伸ばします。

▲ **注意** 必ず一辺に並んだアウトターレグを同時に持ち上げてください。

▲ **注意** ロックレバーのON-OFFの表示範囲を超えて、回すと破損する恐れがございますので、ご注意ください。

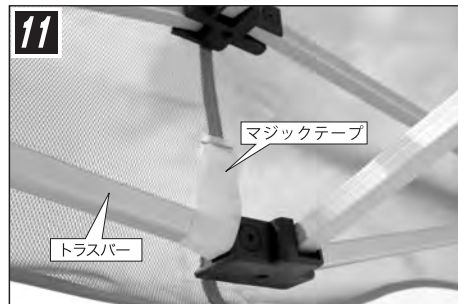
10



反対側のアウトターレグも同様に伸ばします。

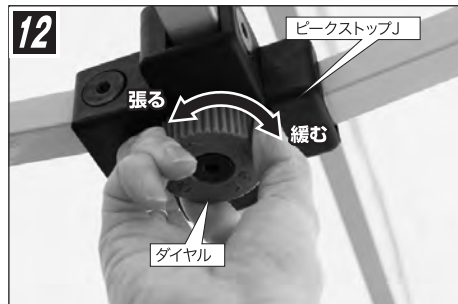
▲ **注意** 脚はすべて同じ長さ（水平）に揃えてください。

11



天幕の裏側についているすべてのマジックテープをトラスバーに結びつけます。

12



ピークストップの下についているダイヤルを回して、天幕の張り具合を調節します。

▲ **注意** テントは、たるみなく「ピン」と張った状態にセットしてください。

ここまで完成した時点で、次の事項を確認し、異常のある場合はテントのご使用を中止してください。
また対応につきましては、お求めになった販売店へお問い合わせください。

- 天幕が破れている、フレームが曲がっている等の異常のある箇所はないですか？ ※なお、ボルトが緩んでいる場合は、付属の六角レンチで締め直してください。
- 天幕と本体フレームの、マジックテープの貼り付き具合は弱くないですか？
- 天幕はたるみなく「ピン」と張れていますか？雨水が溜まりそうではありませんか？
- 本体フレームの各ストッパーが、きちんと固定されていますか？

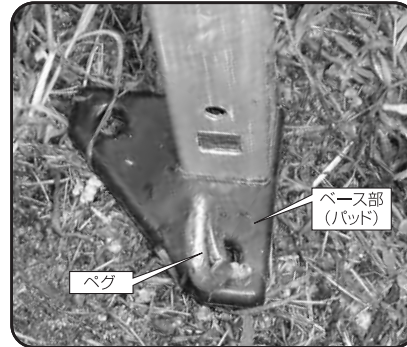
テントを固定する

▲ **注意** ベグは、ロープに対して直角に打ち込んでください。

天幕の四隅にあるプラスチックの留め具にしっかりとロープを結び、ベグをテントの対角線上にしっかりと根元まで打ち込みます。

※四隅以外のアウトターレグには、ベース部の穴へ直接ベグを打ちます。

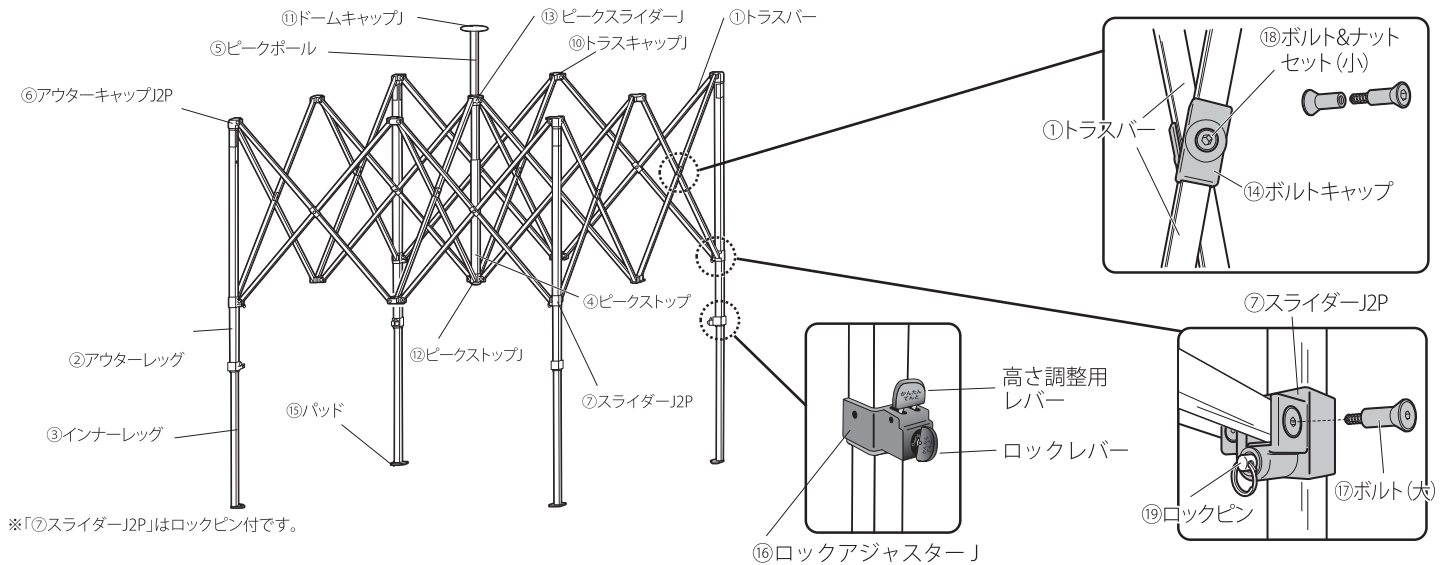
●ロープを張るスペースがない場合



ロープを張れるだけのスペースが無い場合は、ベース部（パッド）の穴に、直接ベグをしっかりと打ち込みます。

▲ **警告** 強風などに煽られ、固定したベグやロープ、ウエイトが外れてしまい事故が起きる恐れがあります。風対策用のウエイトを併用した場合でもけて過信はせず、悪天候時や天候の悪化が予想される場合、また突風が起る可能性のある時は、テントの使用を中止してください。

各部の名称



※「⑦スライダーJ2P」はロックピン付です。